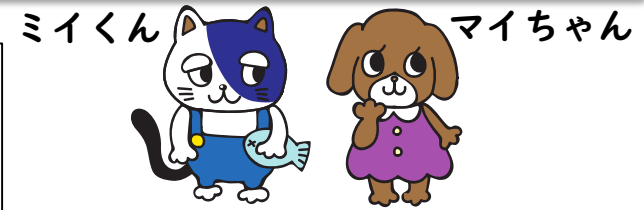


# 防災ウォーキングアプリ「歩いてミイマイ」を活用した地域安全マップ作成活動

## マスコットキャラクター



地域の安全／危険箇所を記録・共有する  
**地域安全マップ作成活動(小宮 2006)**をタブレット等の  
 モバイル端末で実施可能な教育支援アプリケーション  
 子どもの教育から高齢者を含む地域コミュニティ活動  
 まで、**幅広い世代のコミュニケーションを支援**

小宮信夫, “地域安全マップ作製マニュアル(改訂版)ー子どもと地域を犯罪から守るためにー”, 東京法令出版, 2006

**安全／危険箇所  
報告機能**  
 安全／危険箇所を  
登録



**安全／危険箇所  
閲覧機能**  
 安全／危険箇所を  
地図上に可視化



**学習コンテンツ**  
 安全／危険箇所を  
見抜くポイントを学ぶ

**グループ機能**  
 グループを作って情報共  
有、小学校や地域コミュ  
ニティのつながりを作る

**ランキング  
機能**  
 グループ内で  
パフォーマンスを競いあう

犯罪が起きやすい場所の特徴を学ぶ

大学生に付き添ってもらいアプリを試す

アプリを利用して危険箇所を記録

集めた情報を共有し理解を深める



1.事前学習



2.フィールドワーク



3.事後学習

高松市立檀紙小学校(3クラス80名一斉フィールドワーク;21グループ)および香川大学附属坂出小学校における実証実験(2クラス70名一斉フィールドワーク;14グループ)

## 「歩いてミイマイ」を活用した地域安全マップ作成活動の実践

# 安全／危険箇所登録機能

# 安全／危険箇所共有機能

写真に対して、学習したキーワードに基づいてその**場所が安全が危険かを判断**し、コメントを添えて登録するワン

登録した情報は**地図上に旗として表示**されるワン。他人が登録した情報も旗として表示されるワン。旗をタップすると登録情報を知ることができるワン。



「登録」ボタンを押すと、写真撮影が始まるニヤ

キーワード、投稿者、投稿日時、写真、コメントを閲覧できるニヤ。  
**他人が登録した情報を見ることで非同期コミュニケーションが成立**し、新たな見方を知ること、危険な場所を見抜く目が養われるニヤ





「見えにくい」「入りやすい」は危険な場所を表すキーワード。子どもたちにキーワードを覚えてもらうため、事前に学習コンテンツで学んでもらうニヤ

# 学習コンテンツ

①塀の高い道と塀の低い道

AとBはどちらが危険なのか、理由を考えてから下のボタンを押すニヤ。

前へ 次へ

①塀の高い道と塀の低い道

危険なのはA。Aはブロック塀が高く、家から道路が見えにくいから危険なんだニヤ。

前へ 次へ

②周囲に窓の見える道と見えない道

AとBはどちらが危険なのか、理由を考えてから下のボタンを押すワン。

前へ 次へ

②周囲に窓の見える道と見えない道

危険なのはB。Bはまわりを見渡せても、家もなく、見ている人もいないから危険なんだワン。

前へ 次へ



同じ内容でカラフルなワークシートも準備してるワン

# 地域安全マップ作成活動における児童／大学生のコミュニケーション

## 1. 事前学習

香川大学大学生（防犯パトロール隊）が授業を担当するワン。  
授業時間が十分確保できないときは  
学習コンテンツでキーワードを  
重点的に学べるんだワン



## 2. フィールドワーク



グループに分かれてまちの安全／危険箇所を登録するニャ  
大学生がメンターになって話し合いながら進めるニャ



## 3. 事後学習

全員で地図を見ながら  
見つけた安全／危険箇所を  
お互いに発表しあい、  
共通認識を形成するんだワン

